

年長だより

『大事に使ってね』

運動会の練習中、年中組の子どもたちが年長組の踊りに興味をもち、自分たちで手具を作って踊っていました。その様子を見ていた子どもたちは、運動会の後「一緒に踊ろう」「教えてあげる！」と年中組を誘いに行く姿が見られました。「これ貸してあげるよ」「かっこいいでしょ。大事に使ってね」と自分たちのキラキラの手具を貸してあげたり「初めのポーズはこう！」「次はお引越したよ！」と先生のように振りや動きを言いながら一緒に踊ったりする姿が見られました。小さい組さんが何度も楽しそうに踊っている姿を見て、「この踊り大好きなんだね」「ずっとまねっこしてたもんね」と友達同士でつぶやく姿はとても誇らしそうでした。



保育室では、様々なごっこ遊びを楽しんでいます。お客さんとして年少・年中組を呼びに行くと、手をつないで2階まで連れてきてあげます。レジで困っている子を見ると、「お持ち帰りにしますか？」「どうしたの？お金がなくて困っているの？」と優しく話しかける姿が見られます。また、年少・年中組が保育室に帰った後、「もっとごちそうが必要だね」「お箸は使えないからフォークも置いておこう」と小さい組さんのことを考え、遊びに必要なものを作り始める子もいました。



保育室では、様々なごっこ遊びを楽しんでいます。お客さんとして年少・年中組を呼びに行くと、手をつないで2階まで連れてきてあげます。レジで困っている子を見ると、「お持ち帰りにしますか？」「どうしたの？お金がなくて困っているの？」と優しく話しかける姿が見られます。また、年少・年中組が保育室に帰った後、「もっとごちそうが必要だね」「お箸は使えないからフォークも置いておこう」と小さい組さんのことを考え、遊びに必要なものを作り始める子もいました。

このようにいろいろな場面で“1番大きい組”として張り切って取り組む姿が見られるようになりました。これからも他学年との触れ合いを通して、大きくなったことを実感したり、自分たちができることを考えたりしながら、任されたことをうれしく感じ、満足感を味わってほしいと思います。

『動物園遠足、楽しかったね』

動物園に行くことを楽しみにしていた子どもたち。自分たちで目的をもって遠足に出かけてほしいと思い、見る動物、順番などオリジナルのルートを決めることを教師から提案しました。地図を見ながら「赤ちゃんが生まれたゾウとコアラとカンガルーは絶対見たい！」「コウモリ見たい！でも暗いかな…」と思いを出し合い、ほし組のコースを決めました。当日、教師が一人ずつ地図（探検マップ）を用意すると何度も見ながら、「ちょっと待って、探検マップ見るね」「よし、コアラのところへ出発だ！」とまるで本当に探検しているかのように楽しんで回りました。お弁当を食べているときに「先生、レッサーパンダのおうち作りたい」と話をした子の言葉を聞いて、みんな口々に「ぼくたちはゾウを作ろう！」「コアラを作るなら木もいるよね」と見てきたものを振り返りながらやりたいことを話していました。お弁当を食べて元気いっぱいになった子どもたちは、友達と楽しそうに「さんぽ」を歌ったり「あと少しだって！」「がんばるぞ、エイエイオー！」と励まし合ったりしながら長距離を移動しました。

翌日、楽しかったことを友達と振り返れるように写真を掲示しておくこと、登園してすぐに「コアラが地面を歩いててびっくりしたよね」「プレーリードッグかわいかったなあ」と友達と思い出しながら写真を見ていました。その後、「昨日話してたもの作る！」とイメージに合う材料を探してそれぞれに動物を作り始めました。「本物はフワフワしてたから綿を使いたいな」「耳は小さかったからお花紙を小さく丸めて付けよう」と自分のイメージに合う素材を使ったり、大きさを考えたりして本物らしく作ることを楽しんでいます。

これからも自分たちの生活や行事など、どうしたいかを自分たちで考えていく中で、クラスの友達とのつながりを感じながら遊びを進めていけるように支えていきたいと思います。

